

祈りの諸問題 第3回

□ 「祈りの諸問題」のアウトライン

1. 誤った祈り
2. 祈りと 神の摂理
3. 祈りと 神の偉大さ
4. 祈りと 神の全知
5. 祈りと 神の主権
6. 祈りと 自然の法則
7. 祈りを妨げるもの
8. 聖書箇所での誤った適用
9. 祈りが答えられないことについて

本日は、第8の問題と、第9の問題の一部を扱います。第9の問題は、これまでの祈りに関する学びの集約のような内容になります。

□ 第8 聖書箇所での誤った適用 (マタイ 18:15~20)

1. マタイ 18:15~20・・・これは、教会の懲戒の手続きを教える箇所
2. 19節「まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにて祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。
 - (1) 「あなたがたのうちの二人」・・・16節の「二人または三人の証人」を指す
 - (2) 下線部「祈る」と訳されているが、「求める」の意味
 - ① 「心を一つにして」とは、二人の証人が一致して教会において証言すること。
 - 証言の内容は、問題となっている兄弟が確かに他の兄弟に対して罪を犯したこと、そしてそれを指摘しても、罪を犯した兄弟は聞き入れず、適切な対応をとろうとしなかったこと
 - ② 証言をもって、証人たちは、罪を犯した兄弟に対する対処を教会に求めることになる。
 - (3) 「天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます」
 - ① 教会は証人たちの証言に基づいて、罪を犯した兄弟に対して対処する。そのとき、教会が下す決断は、天においても認められる。
 - ② 「それをかなえてくださる」 = 「教会を支持して、そのようにしてくださる」
 - ③ 天の父なる神は、特に何をしてくくださるのか?・・・教会の交わりから除

外された信者の肉体的死のときを決める権限を、主イエスの手から離れさせ、サタンの手の中に移す。天の父がそのことをお許しになるということ。

3. 20節「二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」
 - (1) 「二人か三人が」・・・16節の「二人または三人の証人」を指す。
 - (2) 「わたしの名において集まっているところ」とは、教会において彼らが証言していることを指す。
 - (3) 証言が真実であれば、そこには主イエスも共におられ、証言は正当なものであると認証される。主イエスが彼らの証言を認めるのであるから、天の父は、教会の下した判定を支持し、罪を犯した兄弟に与えていた保護を取り除く。彼の肉体的死のときを決める権威は、主イエスの手の中から離れ、サタンの手の中に移される。
 - 【注意】霊的な救い、永遠のいのちは、決して失われない。
4. 誤った適用・・・この箇所を本来の文脈から離して、祈りに関する約束として誤解されてしまい、次のように誤った適用が主張されることがあるので、要注意
 - (1) マタイ 18:19 → 信者のうち2人が一致して祈るなら、天の父は必ずその祈りに答えてくださる
 - (2) マタイ 18:20 → 2人か3人の信者が主イエスの名において集まるなら、主イエスが共にいてくださる。19節の祈りが必ず答えられるのは、そのためである。
 - (3) 【補足】マタイ 18:20は、地域教会の要件としても誤解されることがある。
 - ① 誤った適用・・・ 2人か3人の信者が集まれば、そこには主イエスが共にいてくださり、教会となる。
 - ② この箇所は、教会の懲戒手続きを扱っており、地域教会の成立要件に関するものではない。
 - ③ 地域教会は、必ず二人以上の長老や監督・執事たちによって指導・世話される信者の集団でなければならない（使徒 14:23、Iテモ 3:1~13）。指導・世話する側だけでも二人以上必要であるから、2人か3人の信者だけでは地域教会にならない。
5. まとめ・・・マタイ 18:15~20は、祈りに関して教える箇所ではない。教会の懲戒手続きに関するものである。この箇所を祈りについて適用しようとするのは、誤りである。

□ 第9 祈りが答えられないことについて (アウトライン)

1. 事例
2. 祈りが答えられない 10 の理由
3. 大きな 3 つの原因
4. 祈りが答えられないとき、自問すべき 6 つのこと
5. 祈りと答えの関係から見る 4 つのタイプ
6. 祈りが答えられるための 10 の条件
7. 病人のための祈り 9 つの原則

□ 第9 祈りが答えられないことについて

1. 事例・・・信者が祈っても答えられないと感じることが多い
 - (1) 詩 35 : 13 私の祈りは胸の中を行き来していました
 - (2) 詩 80 : 4 主よ いつまで あなたは民の祈りに怒りを燃やされるのですか
 - (3) 哀歌 3 : 8 私が助けを求めて叫んでも、主は私の祈りを聞き入れず
 - (4) 哀歌 3 : 44 あなたは雲を身にまとい、私たちの祈りをさえぎり
2. 祈りが答えられない 10 の理由
 - (1) 神のことばに反する
 - ① ヨハネ 15 : 7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。
 - 「わたしにとどまる」・・・イエスにとどまるとは、イエスと一致した思いであるということ。「イエスのことばがあなたがたにとどまる」も、同じ。
 - 「何でも欲しいもの」・・・前提は、イエスにとどまっている状態にあること。その状態では、信者は神のことば、神のみこころに一致した祈り求めをする。だから、その祈りは答えられるのである。
 - ② 事例：信者全員が裕福になることは、神のみこころではない。もし「主よ、私たちを金持ちにしてください」と祈るなら、その祈りは神のことばに反する。そのような祈りは答えられない。
 - (2) 心の中に罪がある
 - ① 詩 66 : 18 もしも不義を 私が心のうちに見出すなら 主は聞き入れてくだ

さらない

- 「見出す」・・・ヘブル語原文での意味は「手放さずに握っている」、「(習慣などに) 執着する」、「喜んで見つめる」。罪に浸る生活をする中で、その罪を楽しんでいる、喜んでる状態である。

- ② 信者が罪の生活の中に喜んで浸かっているようなときに祈っても、その祈りは聞かれない。

(3) 妻との関係が間違っている

- ① I ペテロ 3:7 夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して妻とともに暮らしなさい。また、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。

- この箇所の訳文及び内容については、「祈りのルール第2回」(2021年6月27日)の中の「祈りのルール第7【祈りと家庭生活】」を参照ください。

- ② 家庭における夫婦関係は、祈りの生活にとって重要である。特に、夫が妻に対してどのような態度をとるか、夫の責任は重い。聖書が勧める関係から外れてしまうと、祈りが答えられないことになる。

(4) 動機が利己的であった

- ① ヤコブ 4:3 求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです。
- ② 信者が祈りの中で求めたことが、利己的な動機によるものであるなら、その祈りは答えられない。
- ③ 私たちは神の栄光を見ることよりも、物質的な喜びを得る方を求めがちである。私たちの祈りの動機がどこにあるのか、よくよく注意したい。

(5) 祈りの答えの「時(とき)」がまだ来ていない

- ① I サム 1:9~20・・・ハンナの祈り
 - ハンナは子を授かるように祈っていた。
 - ハンナの祈りに答えることは神のみこころ、しかし神は直ちに答えることはしなかった。
 - ハンナは授かった子を神に捧げた。その後、ハンナは3人の息子と2人の娘を産んだ(Iサム2:21)。第一子は、預言者サムエルとなった(Iサム3:19~20)。
- ② 私たちの祈りに対して神がお答えになる、その「時」がまだ来ていないことがある。祈りが今答えられないからといって失望してはならない。このこと

を理解していると、信者は、失望せずに忍耐をもって祈り続けることができる。

(6) 祈りの答えが形を変えて与えられる場合

- ① ロマ 1 : 9~12 パウロの祈り ローマの教会を訪ねたい
- ② 神の答え (使徒 21 : 27~28 : 31) パウロはエルサレムで逮捕され、カイサリアで 2 年間勾留されたあと、囚人として護送されてローマに到達した。
- ③ パウロがエルサレムで逮捕されたとき、主がパウロに現れて言われた。「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことを証ししたように、ローマでも証しをしなければならない。」(使徒 23 : 11)
- ④ パウロの祈りに対して、神は形を変えて答えを与えられた。

(7) 答えないことが最善の答えである場合

- ① II コリ 12 : 7~9 パウロは、何らかの病気にかかっていた。それを「自分の肉体にささったとげ」と表現し、それが取り去られるように、三度も祈った。しかし、神はこの祈りには答えなかった。
- ② なぜなら、その祈りに答えないことが、パウロにとって最善だったからである。その弱さをかかえていたからこそ、パウロは高慢にならず、神の栄光をより現わす働きをすることができた。

(8) 信仰の基盤が間違っている

- ① 祈りの基盤は、**神に対する信仰**である。
- ② それに対して、「信じて祈れば、何でもできる」という主張。これは、祈りの基盤を、自分勝手な信心に置くものであり、誤りである。
- ③ また、「祈りは、物事を変える」という主張。これは、祈りの基盤を、祈りそのもの、あるいは祈りの力に置くものであり、これもまた誤りである。祈りには、物事を変えるような力は、ない。
- ④ マルコ 11 : 22~24 イエスは弟子たちに答えられた。「**神を信じなさい**。まことに、あなたがたに言います。この山に向かい、『立ち上がって、海に入れ』と言い、心の中で疑わずに、自分の言ったとおりにになると信じる者には、そのとおりになります。ですから、あなたがたに言います。あなたがたが祈り求めるものは何でも、すでに得たと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。」
 - ここでの祈りに関する教えは、波線部「神を信じなさい」が出発点である。神を信じるとは、自分が願ったとおりに何でもしてくれると信じることではない。神のみこころ、神のことば、神の約束を信じるというこ

とである。

- 神が「この山を動かして海に入れる」と言われたなら、その約束を信じて祈るのである。そして、神のことばに従って祈るなら、すでに得たと信じる。これが、祈りにおいて信者に求められる条件である。
- ⑤ 祈りの基盤を、決して、自分勝手な信心「自分が願ったとおりに何でもしてくれる」においてはならない。また、祈りには物事を変える力があるなどと妄想して祈ってはならない。祈りの基盤は、神に対する信仰のみである。
- ⑥ 祈りをどの基盤の上に置くか、自分勝手な信心や祈りの力などに置いたら、その祈りは神から答えられることはない。

(9) サタンの妨害がある

① ダニ 10：10～14

- 前後の文脈
 - ダニエルは3週間の喪に服していた（10：2～3）
 - 場所は、ティグリス川の川岸（10：4）
 - 神の幻を見る（10：5～9）。この神は、第二位格、子なる神、受肉前のイエスである。
 - 天使ガブリエル（8：16、9：21）を通して預言が与えられる（10：11～12：4）
- 3週間の喪に服し始めたときから、「心を定めて、悟りを得ようとし」（12節）、神に祈り求めた←「あなたのことばは聞かれている」（12節）
- 天使ガブリエルが来たのは、ダニエルが祈り始めてから3週間、21日間経過してからであった。祈りは、最初の日から聞かれていたが、その答えは21日間、待たねばならなかった。
- 遅れた理由は、サタンの妨害である。サタンとその配下の墮天使たち（悪霊）が天使ガブリエルを妨害していた。
 - ペルシアの国の君（13節）・・・ペルシアの背後にいる墮天使
 - 最高位の君の一人ミカエル（13節）・・・イスラエルを守る聖なる天使（ダニ 12：1「あなたの国の人々を守る大いなる君ミカエル」）

- ② ダニエルの祈りに対して、神の答えは、サタンとその配下の墮天使たちによって妨害された。しかし、21日間を経て神の答えは天使ガブリエルによってダニエルにもたらされ、重要な預言（ダニ 10：11～12：4）が与えられた。

(10) 神の約束に対する不信仰（疑い）がある

ヤコブ 1：5～7 → 神の約束に基づく祈りでは、その約束を疑わずに信じる信仰がないなら、祈りは答えられない